

消費電力は約半分。効率は倍以上。 電気代 1/2。

LEDの消費電力は、従来の直管蛍光灯の約半分です。
電気効率は倍以上、50%～70%の節約となります。



●電気料金の比較

電気料金

LED蛍光灯

消費電力量 約 **1/2**

直管蛍光灯

電気効率

電気効率 約

200%

直管蛍光灯

LED蛍光灯

CO2 排出量

排出量 約

45% 削減

LED蛍光灯

直管蛍光灯

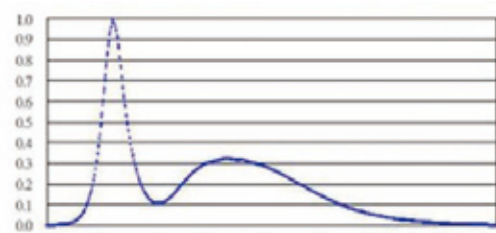
LED 蛍光灯導入後
電力量コストは
50%-70%
節約となります。

※当社比 (EH120-000 で比較)

虫の好む400nmの波長をカット

紫外線が出ないので 虫を寄せ付けない ※1

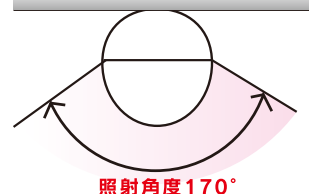
虫の好む400nmの波長がほとんど発生しない為、虫が照明に寄ってきません。従来の衛生面での品質管理にかかるコストも抑え、より安全な食品製造が望めます。



光の波長グラフ

蛍光管の照射角度は170°

従来の蛍光管と違い、構造上天井部(背面部)には光がまったく出ないため、天井を照らして、反射させる光はなくなります。故に天井部が暗くなります。



照射角度170°

※1. 蚊・蜘蛛など一部の昆虫には効果がない場合があります。

割れても飛び散らない 防弾ガラスにも採用

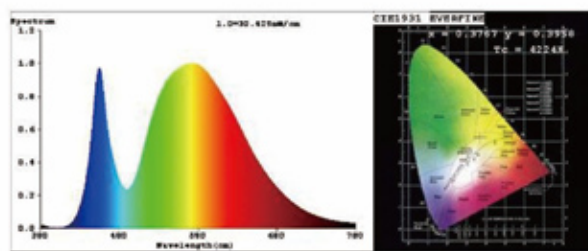
ポリカーボネイトで 本体が割れにくい

万が一、割ってしまったとしても、破片が粉々にならず、辺りに飛び散らないポリカーボネイト製。防弾ガラスにも採用されるほどの強度を持つので、従来のガラス製直管に比べ取扱い易い。

温度管理を行う施設で効果的です。

発熱量を抑えることで 環境の温度上昇を軽減

従来の蛍光灯では、手で触れられないほど熱くなっていた蛍光管でしたが、LED蛍光管は、発熱量を抑え、熱に奪われていた電気効率を上げるとともに、周りの環境への温度上昇を軽減させます。



色温度グラフ

CO2削減に最適

電気代が 変わる LED蛍光灯 電気代比較

従来の蛍光灯とLED蛍光灯の電気料金の比較表です。稼働時間・日数で見るとの通り、長時間継続的に使用する場合は、節約量が格段に下がり、よりメリットが出てきます。また本数を増やし、比較してみても、その効果は一目瞭然です。

使用本数	稼働時間(日)	稼働日数(月)	年間時間	電気代(KW)	蛍光灯		LED蛍光灯		年間節約金額	適用	導入費用8000円/本
					耐用年数12000時間	年間電気代37w+10w	耐用年数40000時間	年間電気代19w			
1	8	22	2112	24	5.7	2,382円	18.9	963円	1,419円	低圧電気	8,000
1	8	22	2112	16	5.7	1,588円	18.9	642円	946円	高圧電気	8,000
1	10	24	2880	24	4.2	3,249円	13.9	1,313円	1,935円	10時間稼働	8,000
1	16	24	4608	24	2.6	5,198円	8.7	2,101円	3,097円	16時間稼働	8,000
1	24	30	8640	24	1.4	9,746円	4.6	3,940円	5,806円	24時間稼働	8,000
1	24	30	8640	16	1.4	6,497円	4.6	2,627円	3,871円	24時間稼働	8,000
100	24	30	8640	24	1.4	975,492円	4.6	393,984円	580,608円	低圧電気	800,000
500	24	30	8640	16	1.4	3,248,640円	4.6	1,313,280円	1,935,360円	高圧電気	4,000,000
1000	24	30	8640	16	1.4	6,497,280円	4.6	2,626,560円	3,870,720円	高圧電気	8,000,000

計算ベース 蛍光灯 37w+安定器10wの計 47w LED蛍光灯 19w

弊社EH120-T276で計算

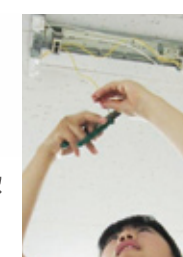
100V電源で使用 女性スタッフでも交換できるほど簡単

従来の器具にも 取付け可能

グロー球タイプはグロー球を外すだけでも使用可能、効率を良くするには、安定器も取り外して下さい。ラビットタイプは、安定器を取り外して下さい。

詳しい交換方法はホームページをご覧ください。

※交換は簡単にできますが、電気を取り扱うため、専門業者への依頼をおすすめいたします。またご自身で交換される際はくれぐれもお気をつけ下さい。※交換の際に器具の破損や故障など起きても当社では一切の責任を負いかねます。あらかじめご了承ください。



使用する場所に応じた2種類の蛍光管

透明カバーと 乳白色を用意

工場内での検品ブースや照度を必要とする現場には、透明カバータイプでより明るく、事務所などには、落ち着いた光の乳白色にするなど、使う場所に依って選ぶことが可能です。



透明タイプ

乳白タイプ